

「農林大って木を切るだけでしょ?」

と思っていた人に読んでほしい話









こんにちは！島根県立農林大学校林業科です！（以下農林大）

「農林大って何をしているの？」そう聞かれると、多くの人がこう答えるかもしれません。「林業の勉強をする学校でしょ？」もちろん正解です。

でも、それだけではありません。私たちが農林大で学んでいるのは、木の伐採技術や森林管理だけではないのです。

今年5月。林業科では初めてとなる「1年生VS2年生 ソフトボール大会」を開催しました。当日の天気は曇り。グラウンドに集まった学生たちは、チェーンソーではなくグローブを手に対戦相手へ挑みます。

2年生は野球経験者が多く、圧倒的有利。しかし、一方の1年生も負けてはいません。全力でボールを追いかけ、大声で仲間を応援し、泥だらけになりながら食らいつきます。

試合が進むにつれ、グラウンドは大きな歓声に包まれました。そこにあったのは学年の壁ではなく、「仲間と一緒に楽しむ」という共通の気持ち。出身地も違う。育った環境も違う。年齢も違う。それでも同じ林業を志し、この学校に集まった仲間たちです。

林業の現場では、一人だけでできる仕事はほとんどありません。危険と隣り合わせの仕事だからこそ、仲間との信頼関係が何よりも重要であり授業だけでは学べないことも大切にしています。チームワーク力。コミュニケーションスキル。仲間を思いやる気持ち。社会人として必要な基礎力。そうした力は、教室だけでは身につきません。

試合終了後は、みんなで BBQ。さっきまで真剣勝負をしていた学生たちが、今度は笑顔で肉を焼きながら語り合います。気が付けば、1年生も２年生も関係ありません。

農林大で過ごせる時間はたった2年間。短いようで、とても濃い2年間です。林業技術の習得だけでなく、一生付き合える仲間や、人として成長ができる場所。それが農林大です。「農林大って木を切るだけじゃないんだ。」そんなことを少しでも感じてもらえたら嬉しいです。以上、実はかなり楽しい林業科の日常でした。

農林大林業科
ホームページ

しまね県民の森 ふれあい講座

～県民の森で暮らす小さな生き物たち～

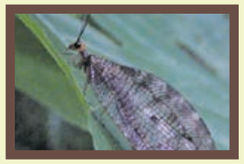
＼春・夏イベント PICK UP!／

県民の森では、自然豊かなフィールドを利用して、森林とふれあうイベント「ふれあい講座」を毎月開催しています。

6月の講座「昆虫観察ウォーク＆森の標本箱作り」はスタッフイチ推しの新企画。荒天のため中止となりましたが、散策を予定していた小田川コースでみつけた、小さな生き物たちをこの機会にご紹介します。



オビマルツノゼミ
小さな粒と思いきや、カメラで撮影するとコロンとしたセミのようなフォルムでした。



ツマモンヒロバカゲロウ
葉っぱの上でじっとしていたカゲロウ。ヘルメットみたいな頭がカッコイイですね。



オバボタル
川沿いの草むらで、葉っぱから葉っぱへ忙しなくとびまわっていました。成虫はほとんど光りません。



コハナグモ
お面がくっついているような腹部にギョッ！花や葉っぱの上で虫をつかまえる小さなクモでした。



初夏の花が咲き始めていました。

ふれあい講座は毎月開催



ふれあい講座 年間スケジュール
季節の山歩きや木工、自然体験講座を開催しています

県民の森木工室周辺には、小田川コースのほか、木材チップが敷かれた「飯南町森林セラピーロード」が整備されています。

県民の森へお越しの際は、ぜひ季節の花や虫たちの世界ものぞいてみてください。

お問合せ：県有林管理スタッフ 0854-76-2302

島根県中山間地域研究センター情報誌
MRRC
Chu-San-Kan press チュウサンカンプレス
研究の森から中山間地域を応援します
令和8年 Vol.43

編集・発行
島根県中山間地域研究センター
〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207
TEL 0854-76-2025　FAX 0854-76-3758

バックナンバーはこちら!

WEBで検索 島根県中山間地域研究センター 検索

島根県中山間地域研究センター情報誌
MRRC
Chu-San-Kan press チュウサンカンプレス
研究の森から中山間地域を応援します
令和8年 Vol.43



末端物流の新たな仕組み

【地域研究科】

木材乾燥のための技術「高温セット処理」って知っていますか?

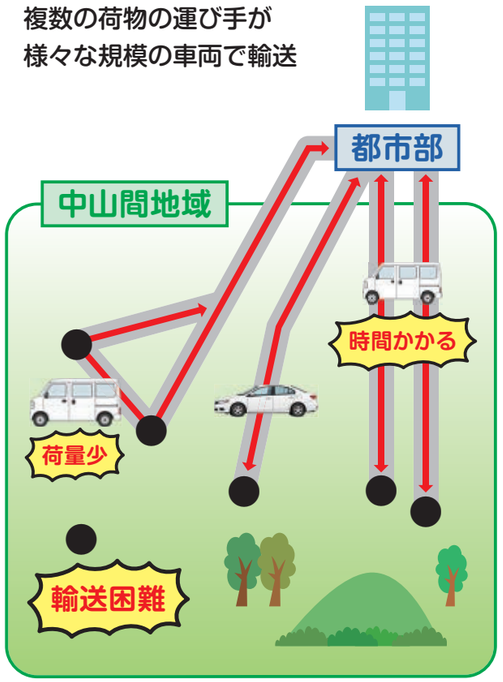
【木材利用科】

末端物流の新たな仕組み

- 荷物を運ぶことができなければ、地域の産業やくらしは成り立ちません。
- しかし、中山間地域は、図1 のように都市部に比べて条件が悪く、現在の物流サービスを維持できなくなることが心配されています。
- このため、当センターでは市町村や企業と連携し、物流の実態調査を行っています。
- 今後は、調査結果を用いて、図2 のような新たな仕組みの可能性を検討していきます。

図1 中山間地域の物流の課題

複数の荷物の運び手が
様々な規模の車両で輸送

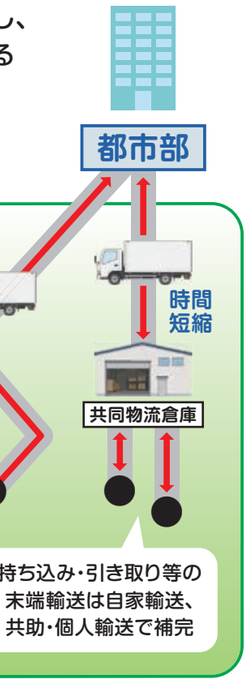


- 荷量が少ないことが多いため、輸送に無駄が多い。
- 荷主企業や荷物を受け取る人が点在しているため、輸送に時間を要する。
- 人材不足が加わり、輸送困難となるところも出ている。

●：荷主企業、荷物を受け取る人

図2 新たな仕組み案

荷物の運び手は減少し、
車両規模は大型化する
可能性



- 荷量を増やして無駄を減らすため、複数の荷物の運び手が１つの荷物の運び手に輸送委託する。
- 荷物の運び手の輸送時間を短くするため、中山間地域内に共同物流倉庫をつくる。
- 結果、輸送維持の可能性も出てくる。

●：荷主企業、荷物を受け取る人

※荷主（にぬし）企業…荷物を出す企業、受け取る企業

お問い合わせ：地域研究科 0854-76-3830

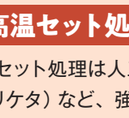
木材乾燥のための技術

「高温セット処理」って知っていますか？

木材は昔から「軽くて強い」材料として、家を建てるための土台や柱などに多く使われてきました。これらの木材は、あらかじめ乾燥させてから使われています。これは、木材ならではのリスクを避けるためです。
今回は、木材の乾燥、特に人工的な乾燥方法である「人工乾燥」に関する技術についてご紹介します。

1 なぜ、木材を乾燥させるの？

木材には水分がたくさん含まれており、そのまま利用すると変形やかび発生のリスクが高まります。
使う前にしっかり乾燥させることで、こうしたリスクを防ぎ、使いやすい木材になります。



- 変形を生じにくくする
- かびの発生を抑える
- 軽くて扱いやすくする

2 乾燥方法は主に2つ

天然乾燥　日光や風で自然にゆっくり乾燥

人工乾燥　機械で温湿度を操作し素早く乾燥

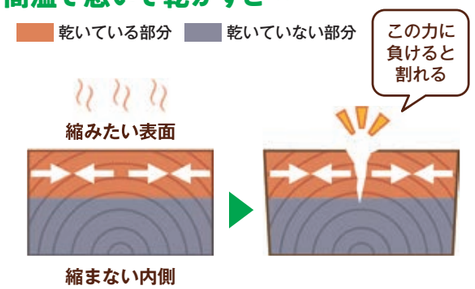
天然乾燥は、時間がかかるものの、木材本来の香りや色ツヤを保ちつつ低コストで乾燥できます。
人工乾燥は、木材の風合いは少し変わるものの、木材の水分量をより多く減らし、均一に素早く乾燥できます。

3 人工乾燥の困りごと：表面に大きな割れが発生しやすい

木材には乾くと縮む性質があり、急激に乾かすと、木の表面にピシッとヒビが入る「材面（ザイメン）割れ」を引き起こします。この割れは天然乾燥でも発生しますが、素早く乾燥する人工乾燥では特に発生しやすい割れです。大きな割れは強度に影響するほか、見た目の悪化にもつながるため、この割れを抑える必要があります。


材面割れした木材

高温で急いで乾かすと…



①木材の表面が先に乾いて縮もうとします。
②内側はまだ乾いておらず縮まないため、縮もうとする表面を引き留めようとします。
③この結果、木材表面の引っ張り合う力が大きくなり、この力が木材が耐えられる限界を超えたときに割れが発生します。

そこで、高温セット処理 を行うと…



①高温の蒸気で木材の表面を一時的に柔らかくし、割れにくく、のびやすい状態にします。
②100℃以上の高温で、乾燥の初期に表面が引っ張られ「のびた状態」をそのまま固定します。
③その後、全体が乾いても、表面が「のびた状態」で固定されているため、無理に引っ張られる力がかからず割れが起きにくくなります。

「高温セット処理」による乾燥材の生産と課題

高温セット処理は人工乾燥に欠かせない技術です。これは、主に家を支える柱や梁桁（ハリケタ）など、強度が必要な構造材を人工乾燥する際に利用されています。
しかし、高温セット処理は100℃以上の高温で加熱するため燃料消費が大きく、生産コストを増大させる原因のひとつとなっています。
そこで、木材利用科では、使用燃料削減のために乾燥時間の短縮や人工乾燥と天然乾燥の組合せなどの研究を行っています。


木材の人工乾燥試験

木材利用科の研究概要はこちら▼

お問い合わせ：木材利用科 0854-76-3825